

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年4月3日

【評価実施概要】

事業所番号	4773800034
法人名	社会福祉法人 久仙会
事業所名	グループホーム まがい友遊宛
所在地	沖縄県島尻郡久米島町真我里366番地 (電 話) 098-896-8600

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	〒903-8603沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1(沖縄県総合福祉センター内)
訪問調査日	2008年3月17日(月)

【情報提供票より】(H19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年8月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	1階建ての	1階～階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱費/一日あたり400円 管理費/一日あたり350円	円
敷金	90,000			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.4歳	最低	61歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立久米島病院・久米島第一病院・仲里中央診療所・仲里歯科・具志川歯科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは海からの心地よい風ともくまおうの木々の間から射す優しい光の中に、赤い屋根のゆったりとした造りになっている。法人の理念を掲げながら、ホーム独自の運営方針を定め、一貫したケアを日々実践することに努めている。職場内の研修を増やしサービスの質の向上に繋げるため、法人内の職員の異動にも配慮している。重度化や終末期については、ホームと利用者・家族との間に指針を定め、主治医や協力医療機関との連携が確保されている。利用者の意向を尊重し、日常鍵をかけないケアを行い、地域との協力関係もとれている消防訓練計画を毎年度実施し、災害時における法人との協力体制もとれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善項目とした「一人で過ごせる環境」「職員の研修」は取り組まれている。今後も引き続き改善に取り組めるよう書式、方法等検討している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に自己評価票を配布し、項目について説明(勉強)しながら取り組んでいる。外部評価についても説明し改善点を話し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期に開催し、外部評価の結果(改善点等)について報告している。介護保険が広域連合で運営され市町村窓口との関わりが薄いので、運営推進会議の委員(町福祉課・包括支援センター)へ情報提供に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の状況は家族が面会に来られた時に説明している。また、利用者の体調が悪い時には家族に連絡し面会を促している。家族からの意見や苦情はほとんどないので、今後は家族に運営推進会議に参加してもらえるよう取り組んでいく予定である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者が地域の行事(ハーリー、エイサー等)を見学し交流している。また、隣接しているゲートボール場において地域の参加者と会話を楽しんだり、夏にはホームのバーベキュー会に参加してもらっている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を掲げながら、ホーム独自の運営方針を定めている。		ホームの運営方針で地域との交流を掲げているが、地域密着型サービスとして地域との関わりを理念に盛り込んでほしい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の立場で日々のサービスについて納得してもらえているか、気づきができていないか確認しながら支援している。	○	利用者への対応(移動介助・声かけ等)に職員間でばらつきが見られるので、理念に基づき具体的にどう支援するか話し合い取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域の行事(ハーリー、エイサー等)を見学したり、隣接するゲートボール場において地域の参加者と会話を楽しんでいる。また、夏にはホームのバーベキュー会に参加してもらっている。		地域の一員として自治会への加入(賛助会員)や、地域包括センターの提案(地域との関わり)を活用したり、ホームとして、利用者の出身地域への逆デイサービスを検討し、地元の方々と交流してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人一人に自己評価票を配布し、項目を確認しながら取り組んでいる。外部評価の改善点についても説明している。	○	自己評価・外部評価の意義は理解しているが、改善項目の取り組みが少ない。今後は、利用者の立場で優先順位を選択し具体的な改善に結び付けてほしい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期に開催し、外部評価の結果(改善点等)を報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険制度の窓口が広域連合なので市町村との関わりが少ない。運営推進会議の町福祉課、包括支援センターの委員に対してホーム側から積極的に情報提供に努めている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況は家族の面会時に伝えている。利用者が体調の悪い時は家族に連絡し、面会を促している。ホーム便りを毎月発行し、行事や職員の異動等を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族からの意見、不満等はこれまでにない。	○	利用者の家族に意見・要望等が発言できるよう運営推進会議への参加呼びかけを検討していることについて、是非実現してほしい。尚、家族の意見等を引き出す方法としてアンケートの試みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのケアに一貫性が必要と考え職員を育成しながら、利用者への影響を考慮し法人内での職員の異動に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内において勉強会を実施したり、島外研修にも勤務調整しながら参加させている。特に認知症に関する研修には積極的に参加、報告し、情報交換している。		研修への参加は離島のため厳しいと考えられるが、年間の研修計画を作成しサービスの質の向上に努めてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加している。外部への研修参加が難しいので講師を招へいし、町内の福祉サービス事業所と合同で研修会を開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から入居される利用者が多く、ホームに慣れるまで家族の面会等協力をお願いしている。居室内に利用者の馴染みの家具等を持ち込み安心して繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内の壁には利用者の作品(ぬり絵)が個人別に貼られている。職員は利用者から旧暦の行事料理について教わったり、琉球民謡と一緒に歌ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の希望や意向は利用開始時以外には聞かれた記録がない。	○	利用開始当初の記録がそのまま使用されているので、早い時期に利用者や家族の意向調査等を実施し把握に努めてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画は利用開始時の目標のままになっている。	○	利用者・家族の希望・意向が反映されたアセスメントシートを作成し、目標を設定した介護計画に沿って日々のケアが実施されるよう取り組んでほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に合わせたケアを実施しているが、介護計画の定期的な見直しに至っていない。	○	利用者の状態を把握している職員の意見を十分検討し、介護計画の定期的な見直しに繋げてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開設間もない(3年未満)ので事業の実施が認められない。		来年度(平成20年7月以降)にホームにおいてショートステイ等の支援事業を検討している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は当ホームを利用する前からの馴染みのかかりつけ医の受診を継続している。また、受診の際は家族に連絡し、職員が病院へ同行し家族とは病院で待ち合わせている。		利用者の病院受診は基本的には家族同行となっているので、今後はホームとして家族に対し病院受診についての方針を説明し、職員との連携を図ってほしい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する法人としての方針を設定し、利用契約時に家族に説明している。職員に対しても意識付けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーへの配慮を職員間で徹底し日々のケアを行っている。トイレの入り口にドアとは別にカーテンを取り付け、利用者の負担軽減とプライバシーの確保に繋げている。	○	利用者の個人情報を守守することは認識されているが、個人情報の利用目的について利用者や家族の同意が得られていない。今後は、個人情報の利用目的を明確にし同意を得られるよう取り組んでほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は日中は居室で過ごすことはほとんどなく、常に居間でテレビを見たり会話を楽しんでいる。		利用者が何故居室でゆっくり過ごせないのか、職員が利用者に寄り添い意向を把握できるよう努めてほしい。利用者の生活歴等を十分把握し、その人らしい暮らしを支援してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備や片付けには参加できていないが、職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。	○	利用者の食事に対する意欲を継続してもらえるよう、食事作りへの参加(味付け担当、おやつ作り担当等)を促してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の予定や時間を決めず、利用者の希望に沿って入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下準備(大根の皮むきやもやしのひげ取り)や、洗濯物たたみは利用者が担当している。また、利用者は完成したぬり絵に書かれている歌詞を嬉しそうに歌ってくれたり、若い頃久米島紬を織りたくさん表彰を受けたと笑顔で話している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺や地域の路地を散歩している。法人の協力を得てドライブを楽しみながら利用者の自宅を訪問したり、利用者と一緒に食材等の買い物をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームの理念として「鍵をかける行為」は身体拘束につながると考え、利用者の動向には常に職員が配慮できるよう努めている。また、利用者がホーム外へ出られた場合は、地域の方々から職員に連絡してくれる等信頼関係が築かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の発生箇所を想定し、利用者の非難誘導を含めた消防訓練を毎年度実施している。夜間の緊急時においても法人と協力体制ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に配慮し個別に支援している。食事が減った利用者には医師の指示で栄養補助食品(エンシュアー)を利用している。		利用者ごとの体重(BMI)を把握し、カロリー摂取量の目安にしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は天井が高く、採光も良く居間・食堂は広い。トイレや風呂場も車椅子対応に十分な広さが確保されている。		居間に設置した応接セットはソファーのみの使用しやすい配置を検討し、利用者が座ってみたい、一人で過ごしたい等思いに配慮してほしい。台所カウンターを利用者のおやつ時間に使用する等気分転換を試みてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド以外の馴染みの家具や小物が持ち込まれ、壁には利用者の家族等の写真が掛けられている。お茶の好きな利用者の居室にはポットや湯呑み茶碗が用意され、いつでも好きな時に使用できるよう支援している。		